

ベストクラス選定理由書

作成者：後藤美樹，赤澤真旗子，田中美和子
宮元博章，伊藤博之，小平健太郎

科目名称		生徒指導論（進路指導を含む。）	
		（担当教員名： 新井肇，古川雅文 ）	
課 程	： 学部3年次	開講学期	： 後期
授業形態	： 講義	授業規模	： 81人以上
インタビュー対象教員名		新井肇，古川雅文	
（実施日時：7月9日（木）13時10分～14時40分；実施場所：総合研究棟3階中会議室）			
インタビュー対象受講者名		薄田孝誠	
（実施日時：7月9日（木）13時10分～14時40分；実施場所：総合研究棟3階中会議室）			
選定理由			
<p>受講生170人を超える科目において「自分で考え、表出し、共有する授業」（受講生のコメント）となっていると判断されることから、本授業を2014年度ベストクラスの一つとして推薦するものである。</p> <p>上記のような判断に至った具体的な理由を以下詳述する。</p> <p>まず何より、「『生徒指導』という語によせる学生のイメージの狭さを広げる」という教員側の核となる目標が目論見通り実現していると推測されることである。</p> <p>次に、上記の目標を実現するための、特に教育方法上の工夫の充実が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事例検討を多く組み込んでいることに加えて、講義場面においても、「一方的な知識の伝達ではなく、学生に問いかけ、考えさせたり話し合わせたりする“活動”をなるべく多く組み込む」ことで、自覚的に授業に参加させるように仕向けている。 ● 抽象→具体→抽象と、1度は具体的なレベルで考えられるフェーズを意図的に組み込んでいる。 ● その際、児童・生徒の立場からだけでなく、実習経験などを元にして教員の立場から、さらには学校外の者の立場から考えられるように促している。 ● 授業2回目に、「あなたが教員になったら私語をなくすようにどのように指導するか」という課題を取り上げて、学生の立場ではなく、教員の立場から問題を考えさせる機会を設けることで、私語に対する予防的指導を行っている。 ● 自分たちの今までの学校での経験や実習での経験から、与えられた課題（テーマ）について学生側はいろいろな考えを持っている。多くの学生はそれを表出したい、他の学生の考えをシェアしたいという欲求を膨らませている。（そのように上手く教員により仕向けられていると推測される）その欲求を上手く満たすような授業展開になっている。 ● カウンセリング技術を駆使した学生とのコミュニケーションが授業の雰囲気を良くしていると推測される。 ● 現場経験や教育行政との関わりの中で見聞きした、公式文書にはほとんど出てこない“裏話”が学生には喜ばれているようである。 ● 2名による分担授業の形式をとっているにも関わらず、学生側に一つの授業としてのまとまりを意識させることが出来ているのは、①日常的に担当者間に交流する機会が多いことと、②常に、「生徒指導」分野の見取り図を示しつつ、今何を勉強しているか、なぜそれを勉強しているのかを常に意識させるようにしていることが寄与していると推測される。 			